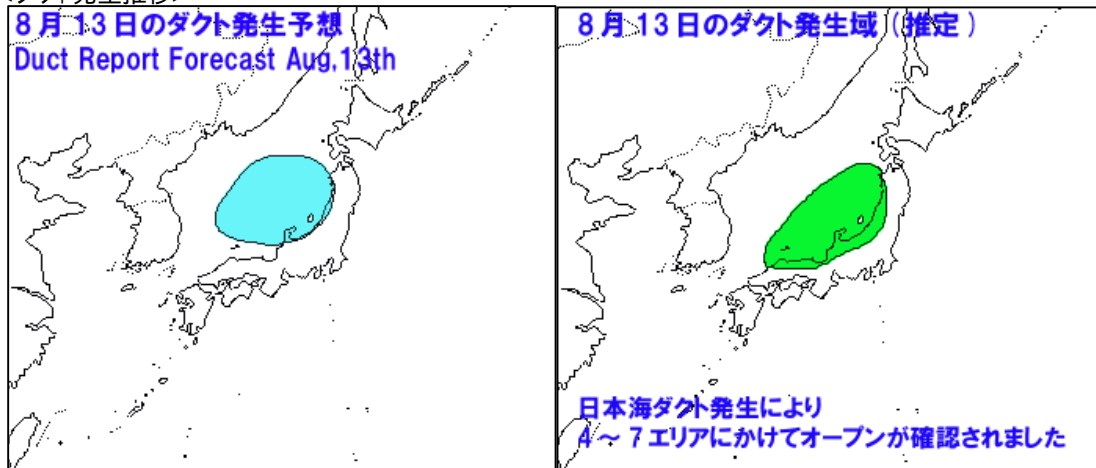


# 高気圧に覆われ日本海ダクト発生！

## 1.はじめに

8月13日は秋の乾いた空気を伴った移動性高気圧が日本海を進みダクトが発生、7～4エリア間でオープンが確認されました。気象解析によってダクトが発生しやすかったことの裏付けを行います。

<ダクト発生推移>



<13日のオープン情報>

JM7BWU佐々木さんからの情報・・・

大山レピーター59

鳥取県米子市と59-59交信成立！

JG0TEV移動運用実施結果・・・

19:32 JM7BWU(秋田県秋田市)-JG0TEV/0(新潟県三島郡越路町) RS56-59

移動運用によって0-7エリア間のオープンを確認

7エリア各局の情報から7-4,9エリア間もオープンしていた模様

ダクトは夜間になって時間の経過と共に消失

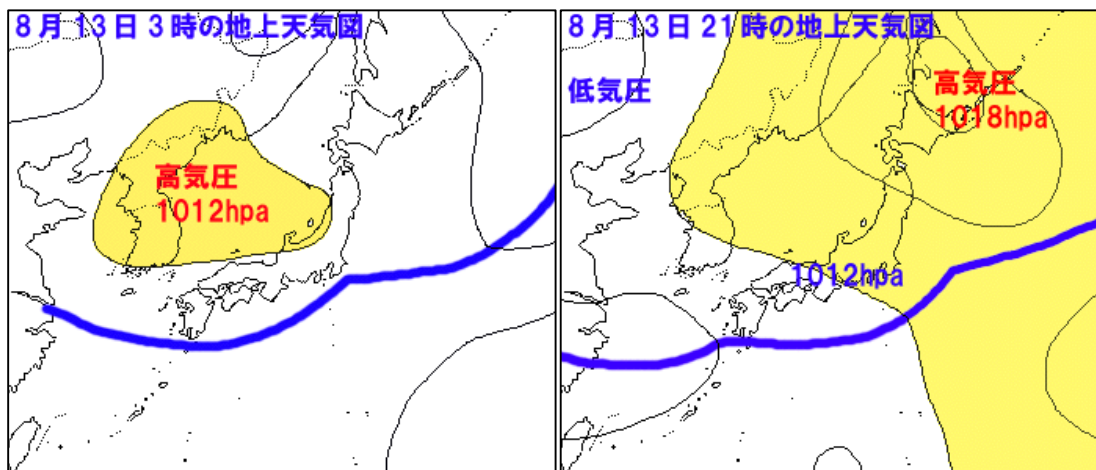
## 2.気象解析からダクト条件に照らしあわせ検証を行う

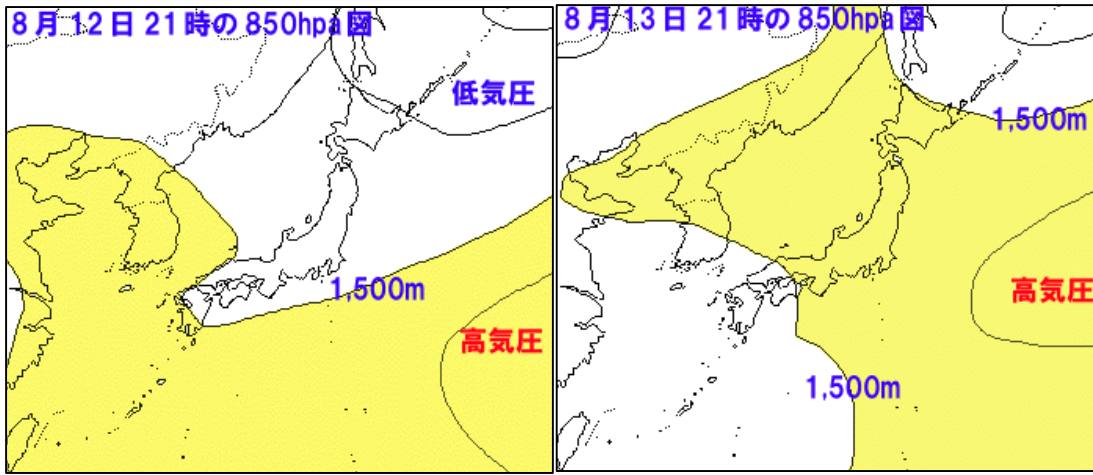
1.勢力を強める背の高い高気圧に覆われていたか？

13日の850hpa図を見ると9時に黄海に中心を持つ高気圧が解析されています。

この高気圧の中心は21時には日本海中部に達していて1,500mの等高度線で囲まれた領域は日本付近から日本海を経て大陸東岸にまで達していることがわかります。この領域は時間と共に広がっていることから、高気圧の勢力は強まっていたと考えられます。

中層大気を表す500hpa図からも沿海州付近で等高度線が北に膨らんでいることがわかります。

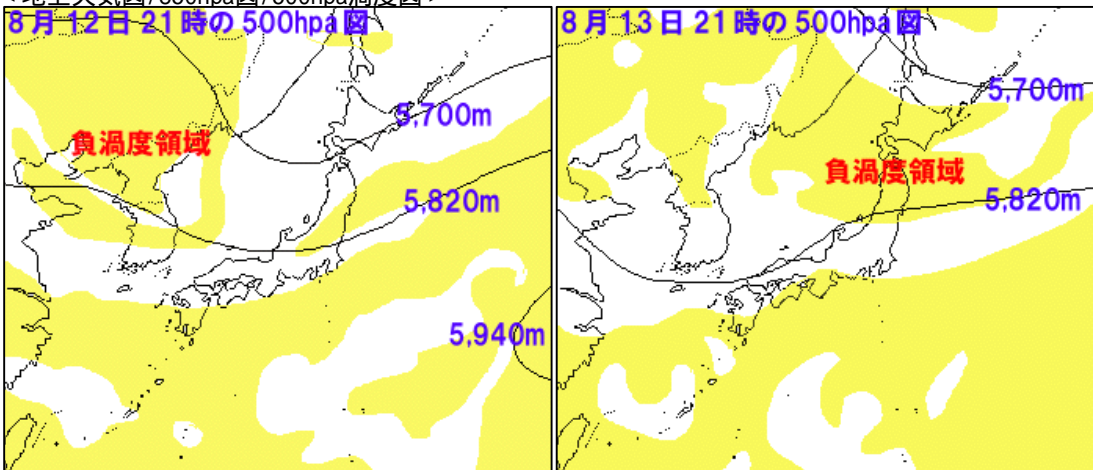




2. 負渦度領域に覆われていたか?

日本海中部から沿海州にかけてみられるリッジに伴って、負渦度領域が広がっていることがわかります。

< 地上天気図/850hpa図/500hpa渦度図 >



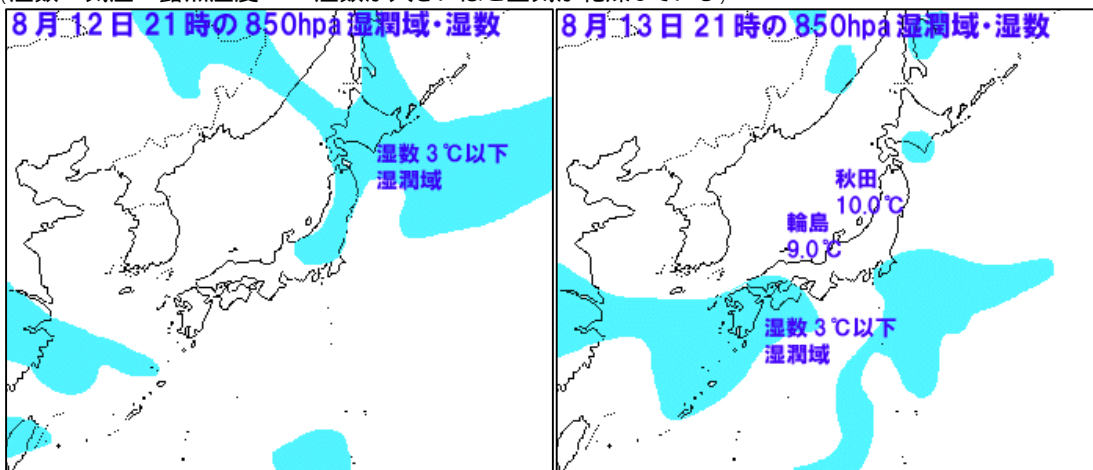
3. 乾燥空気の流れ込みと寒気に伴わない下降流域に覆われていたか?

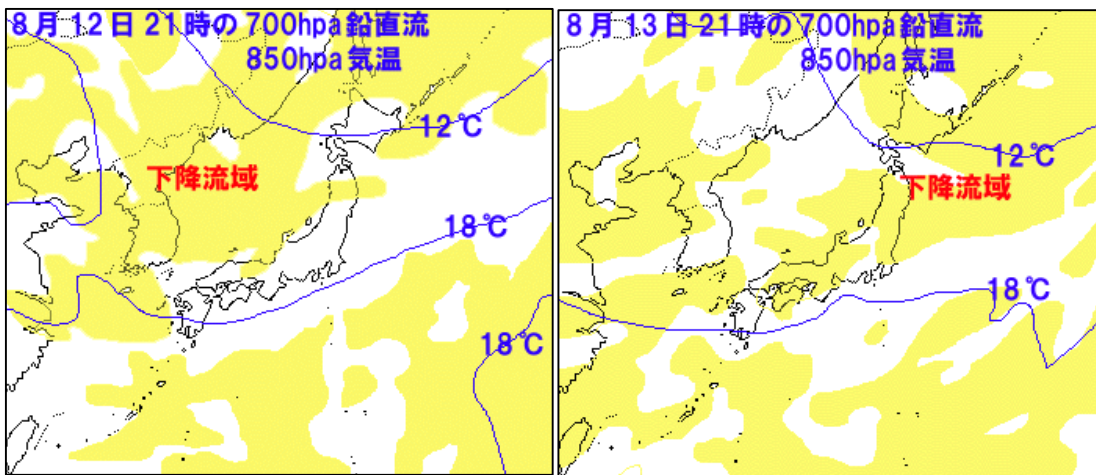
日本海の上空では乾燥空気が流れ込みました。

また、日中を中心に下降流域が解析されていることから、乾燥空気による下降流が発生していたと考えられます。

< 850hpa湿数図・・・上空約1,500m付近の空気の乾燥状態/700hpa鉛直流図 >

(湿数 = 気温 - 露点温度 ……湿数が大きいほど空気が乾燥している)





以上から高気圧に覆われて乾燥空気による下降流の発生、負渦度領域の広がりからみられるように中層大気まで高気圧に覆われたことによってダクト発生条件がそろいダクトが形成されたものと考えます。

しかし、高気圧の勢力が強くはなかったこと、夕方以降本州付近には南から暖かい湿った空気が流れ込みやすくなったことからダクトは広範囲に長時間に渡って形成されなかったのではないかと考えます。

### 3.考察

13日は高気圧が日本海を進んで日本付近を覆い上空に乾燥空気が流れ込んで下降流域に覆われたことによってダクトが発生したものと考えます。